

平成20年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：セジロウンカ、トビイロウンカ（No.1）、フタオビコヤガ（No.2）

平成20年7月24日
鳥取県病害虫防除所

1 セジロウンカ

(1) 発生状況

- ア 予察灯への初飛来は、6月21日（平年：6月11日）で平年と比較して遅かった。
- イ 7月中旬現在、予察灯への総誘殺数は平年と比較して少ない。
- ウ 7月18～22日に行った、沿岸部付近のウンカ類常発地の定点（10地点）における巡回調査の結果、発生ほ場率は88.0%、1株当たり平均成幼虫数は1.7頭（平年：6.0頭）であり、平年と比較して少ない発生であった。
- エ 現地ほ場での発生の主体は、中・老齢幼虫である。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 7月22日現在、防除が必要なほ場は認められていない。しかし、7月下旬～8月上旬の発生密度は、移植期の育苗箱施用剤の使用の有無など、それ以前の殺虫剤処理状況によって異なるので、ほ場ごとに発生状況を調査した上で防除の要否を決定する。
- イ 7月下旬～8月上旬の要防除水準は成幼虫数10頭/株である。
- ウ 8月上旬までに穂ばらみ期防除を実施する場合、ウンカ類に登録がある殺虫・殺菌混合粉剤などで、いもち病、紋枯病などとの同時防除を行う。
- エ 8月上旬までに穂ばらみ期防除を実施しないほ場では本種の発生状況に十分注意し、要防除水準に達した場合は、粉剤、液剤などで直ちに防除を行う。

2 トビイロウンカ

(1) 発生状況

- ア 予察灯への初飛来は、6月19日（平年：7月25日）で平年に比較して早かった。
- イ 7月中旬現在、予察灯への総誘殺数は平年と比較して少ない。
- ウ 7月22日現在、水田での発生は認められていない。

(2) 防除上注意すべき事項

7月下旬現在、本種の防除が必要である地域はないものと考えられるが、8月下旬以降に発生が増加する可能性もあるので、今後の予察情報などに注意する。

3 フタオビコヤガ

(1) 発生状況

- ア 7月中旬に行った定点巡回調査（県下30地点）の結果、発生ほ場率は51.0%（昨年：58.9%）とほぼ昨年並である。一方、被害株率は15.2%（昨年：20.6%）で、昨年と比較してやや低く、食害程度は軽い。しかし、中山間地域を中心に、幼虫の発生が多いほ場も一部で認められている。
- イ 7月中旬現在、ほ場での発生の主体は、若～老齢幼虫及び蛹であり、各ステージが混在して発生している。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 水田におけるフタオビコヤガ幼虫の発生は8月下旬頃まで続く。特に、本種が多発しやすいほ場（中山間地域、平坦部の山際のほ場、周囲より葉色の濃いほ場）では、今後の発生動向に注意が必要である。
- イ 発生が多いほ場では、穂ばらみ期に粉剤、乳剤などを使用して防除を行う。なお、この時期は、穂いもち及び紋枯病などの防除時期となるので、本種にも登録のある殺虫・殺菌混合粉剤による同時防除が有効である。
- ウ 穂ばらみ期防除の1週間前までに要防除水準（暫定版：下記の～の条件をすべて満たす場合、発生の主体が1.2cm以上の幼虫、被害株率90%以上、食害葉面積率10～20%以上）に達した場合は直ちに粉剤、乳剤などで防除を行う。